

第 1 回香南市産業振興計画推進分野別部会合同会議 まとめ

- 日時：平成 29 年 8 月 25 日（金）15:30～17:30
- 場所：のいちふれあいセンター 2 階 第 1・2 研修室
- 出席者：55 名（部会員・策定委員・市職員）

1. 開催目的

会議の中で「他の部会の意見も聞いてみたい」「部会の全体会があると良い」といった部会を超えたつながりを持ちたいとのご意見が出されたことから、部会員及び策定委員会の委員が一堂に会する合同会議を初めて開催。

2. テーマ

～移住促進から産業振興につなげるためには～

（すべての分野に関わり、部会員が一致団結していくテーマにふさわしい「移住促進」を選定）

3. 内容

地域住民を「スタッフ」、移住者を「ゲスト」と見立て、スタッフは住民としての誇りや満足感を持ち、ゲストに対してどのようなおもてなしや地域の魅力を提供ができるのか、というマーケティング戦略の視点から、移住者を呼び込み産業振興につなげる方策について、ワークショップ形式でディスカッションを実施。

4. 意見・提案等（要旨）

◆全体

○条件面

- ・移住の条件として必要なことは「仕事があること」及び「住むところがあること」。
- ・都会からの需要を見極め、田舎固有の不安材料を取り除くことが重要。
- ・移住希望者が仕事や住居などを個人的に探すのは限界があると思うので「これがダメなら、この仕事（職種）はどうでしょう」というように、次を紹介できたら続くのではないか。
- ・移住者に勧める居住先として、市営住宅の整備をすべきではないか。エアコンの設備がなく、草が生えている空き家では、誰も住もうとは思わない。移住者を応援していく土台づくりが必要。

○地域住民

- ・地域住民の満足度が低いと、移住者には魅力を感じないし、発信力も弱い。地域住民の満足度を高めるためには、住んでいるまちへの愛着や誇りを持ってもらうことが大切。住んでいるまちが、もっとすてきなまちになるように努力するとともに、まちの魅力を「自治会自慢パンフレット」にして情報発信してはどうか。移住者がどのまちに住みたいのか、選ぶことができる。
- ・地域からも、移住者の希望を出すほうが良い。どういう人を求めているのかを発信することも大切。こんな問題や課題を解決するためにこのような人に来てもらいたい、というような人物像を描いてこちらから人を呼ぶようにしていくことも考えるべき。
- ・移住者が来る、移住者の視点を地域に取り入れることで、地域が良くなるというイメージを作る。まずは一人目の成功例を。

(交流)

- ・「知らない人を受け入れたくない」と思っている人に知ってもらうためにも、地域住民と移住者がいつでも立ち寄れ、交流ができるような場所があればいいと思う。
- ・旅人（お遍路さん）が多いので、誰でも寄れるサロンのな施設があれば良い。その場で情報交換ができる。
- ・移住後の地域住民とのトラブルを解決する仕組みづくり。

○移住（希望）者

- ・移住希望者が、それぞれの分野の移住者の話を聞くことができれば、移住後の生活をより現実的に描くことができると思う。
- ・家族での移住の場合、旦那さんのことだけではなく、奥さんのこと、例えば仕事（パートを含む）をしたいという希望だけでなく、趣味があるようであれば、それが生かせるようなところまでを紹介するなど、家族のライフスタイル全体に対しての細かいサポートができれば、移住につながる可能性がより高くなるのではないか。
- ・移住者（若者）の中には、「移住先（香南市）で結婚をして…」という思いの人もある。移住施策とあわせて婚活も必要なのでは。

○情報発信

- ・香南市は、高知市からも空港からも近く、立地が圧倒的に良いところをアピールすべき。都会的要素もあり、田舎すぎない＝ちょいなか。銀座から3時間。海・山・川の全てがそろっている。地の利を生かす。
- ・「こんなことも、あんなこともやっている。香南市に住めばこんな特典がある。」といったようなパフォーマンスを多少おおげさなくらいやらないといけないと思う。

- ・移住者と観光客は違う。お客さんではない。ウエルカムだけではなくデメリットもしっかり示し理解したうえで移住してもらえるように。
- ・（農地付き）空き家バンク（登録 12 件）など香南市ウエルカム移住促進事業に関する情報をもっと拡散していく。

◆各分野

○農業

- ・高齢化による後継者不足の背景には、親自体が「子どもに継がさない」ということがある。新規就農者に対する支援策は整っているので、就農したいと思ってもらえるよう、魅力ある農業にしていかなければと考えている。
- ・知った人（頼れる人）が誰もいない状況での就農は厳しい。移住者が就農するためには、身内が農業をやっているなど、地元に関わりが深い“伝手”がないと、いきなり農業をしたいといってもハードルは高い。
- ・農業の取り掛かりとしては「露地みかん」がやりやすいと思う。ハウスマカンより経費が安いし、木をそのまま譲り受ければ 1 年目から収入になる。露地みかん栽培の引き受け者の募集などの情報を発信できれば、移住者にとっても選択肢が広がるのではないか。
- ・都会で生活している人は、「自然が豊かな環境の中で暮らしたい」という思いを持っている人も多くいると思うので、まずは移住を考えている人を対象にした「体験農業」をやってみるといのはどうか。
→窪川アグリ体験塾というのがあり、短期間の体験から受け入れを行っている。
- ・農業特区を導入し、外国人研修生を受け入れる。
- ・一次産業を企業化して雇用を創出するのはどうか。（農家のサラリーマン化）移住者の受け入れ先や起業・独立したい人の助走期間として機能するのではないか。

○林業

- ・専業での生活は厳しいが、香南市は共稼ぎや副業ができる、移住するのに適した地域であると思う。

○水産業

- ・漁業者は若くて 50 歳代。現在の仕事の見直しが必要。移住の話は困難。
- ・漁業体験ができる「お試しツアー」のように期間を決めて楽しいことや辛いことを知ったうえでないと、「思っていたことと違っていた」と途中で帰られる可能性がある。
- ・ポイントは「いい講師（漁師）に出会えるか」。いい講師に出会えば、漁業を続ける確率が高い。いい講師を育成していくことが重要。

○商業

- ・空き店舗の掘り起こしを進めているが、店舗兼住居になっているものが多いため、店舗のみを貸し出す人がいない。

○工業

- ・社員の中には県外の人もあるが、県民性に馴染めなくて辞めた人もいる。言われてみれば、独身者でこちらに来て結婚した人は続いているが、そうでない人は続きにくいと言えるのかもしれない。

○人材

- ・移住者を取り込むための強烈的なスタッフ、キーパーソンが必要。横のつながりを大事に。

5. 今後

出されたご意見やご提案は、各部会へフィードバックを行い、新たな産業振興施策の実現に向けて検討していく。